

# 景気動向調査報告書

令和5年4月末調査

この調査は、岡谷市の基幹産業である製造6業種（精密、機械、電気、計量、表面処理、  
鋳造）の企業の皆様のご協力により、今期（令和5年4月末）を基準とした業況等について  
まとめた報告書です。

岡谷市産業振興部工業振興課・岡谷商工会議所



- 調査実施期間

前年同期	前 期	今 期	来 期
令和4年4月	令和4年10月	令和5年4月	令和5年10月

- 調査業種及び調査企業

(件数)

調査業種	精密	機械	電気	計量	表面処理	鋳造	合計
調査企業数	40	27	11	7	12	3	100
回答企業数	40	27	11	7	12	3	100

- 従業員数

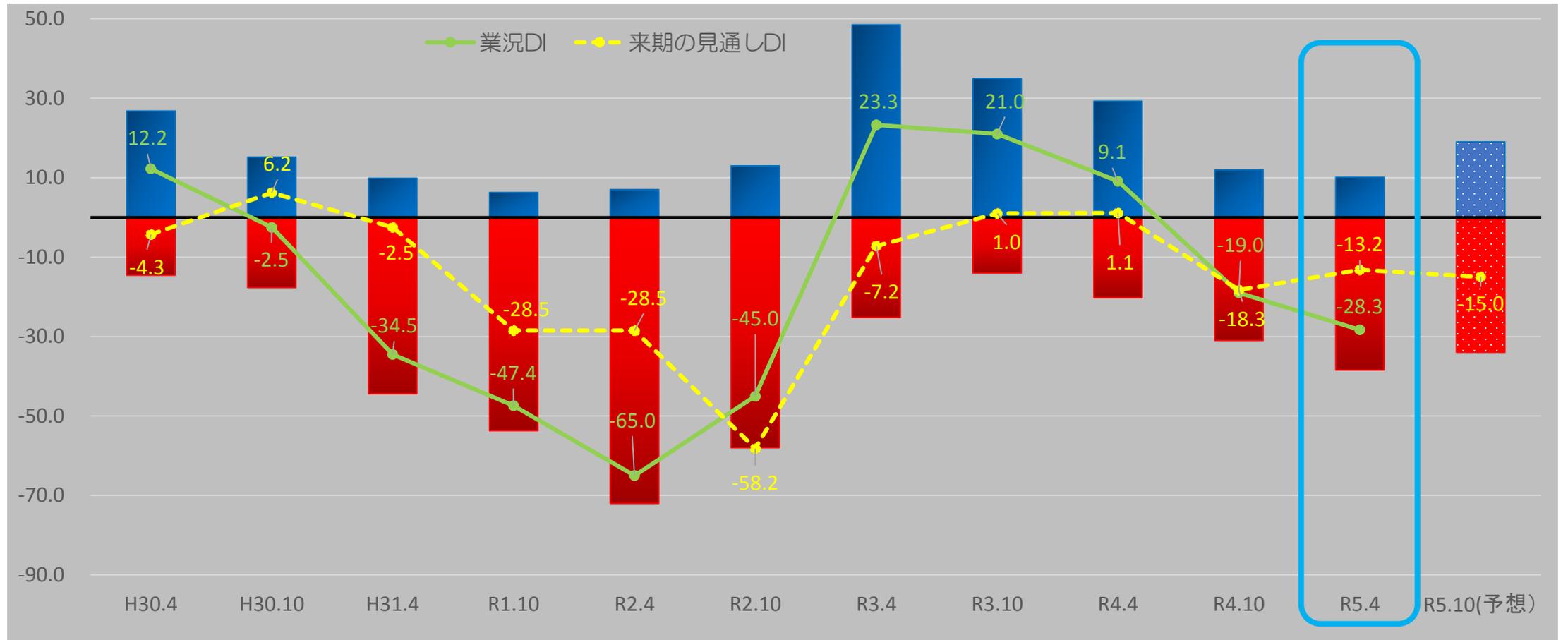
人数	0～9人	10～19人	20～29人	30～39人	40～49人	50～99人	100人～	合計
企業数	29	14	9	8	11	19	10	100

## 令和5年4月景気動向 調査結果のポイント

- 今期の本市製造業の業況DIは、分野を問わず堅調に推移する企業がある一方で、好調を維持していた半導体関連分野において生産調整の影響を受けるとともに、自動車関連分野においても引き続き受注が低調であることから、悪化に転じる企業が増加し、2期連続でマイナス水準となりました。また、来期の見通しについても、総体的に不透明感が強く、業況DIはマイナス水準となっています。
- 製品単価DIはプラス水準で推移していることから、価格転嫁の取組が進められています。他方、収益DIはマイナス水準で推移していることから、原材料仕入価格や原油価格等の高騰による影響が経営に対して負荷となっていることが伺えます。
- アフターコロナを見据え、新分野展開等の動きや対面での営業・販路開拓等を行う企業が多い一方で、販路開拓における営業等専門職の人手不足が課題となっています。また、調査企業の半数で従業員が不足し、特に製造現場の人材が不足している状況であり、中途・新卒採用の強化や労働条件の改善など、人材確保に向けた取組が行われています。

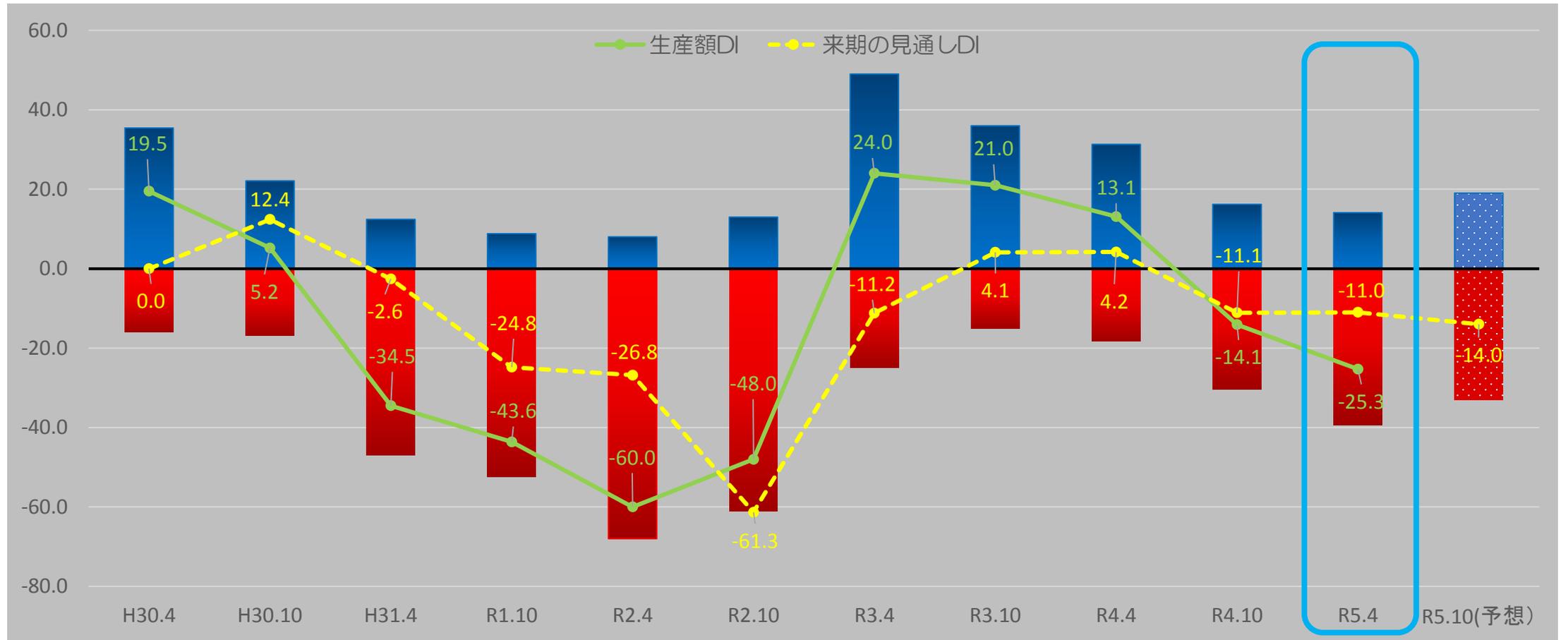
※棒グラフのプラス側は好転(増加、上昇、余裕)の企業の割合、マイナス側は悪化(減少、低下、窮屈)の企業の割合です。折れ線グラフ(DI)は好転(増加、上昇、余裕)の企業の割合から悪化(減少、低下、窮屈)の企業の割合を引いた差です。折れ線グラフ(来期の見通し)は調査時の来期(6カ月後)のDI値です。

# ①業況DI【前期(6ヶ月前)に比べて】



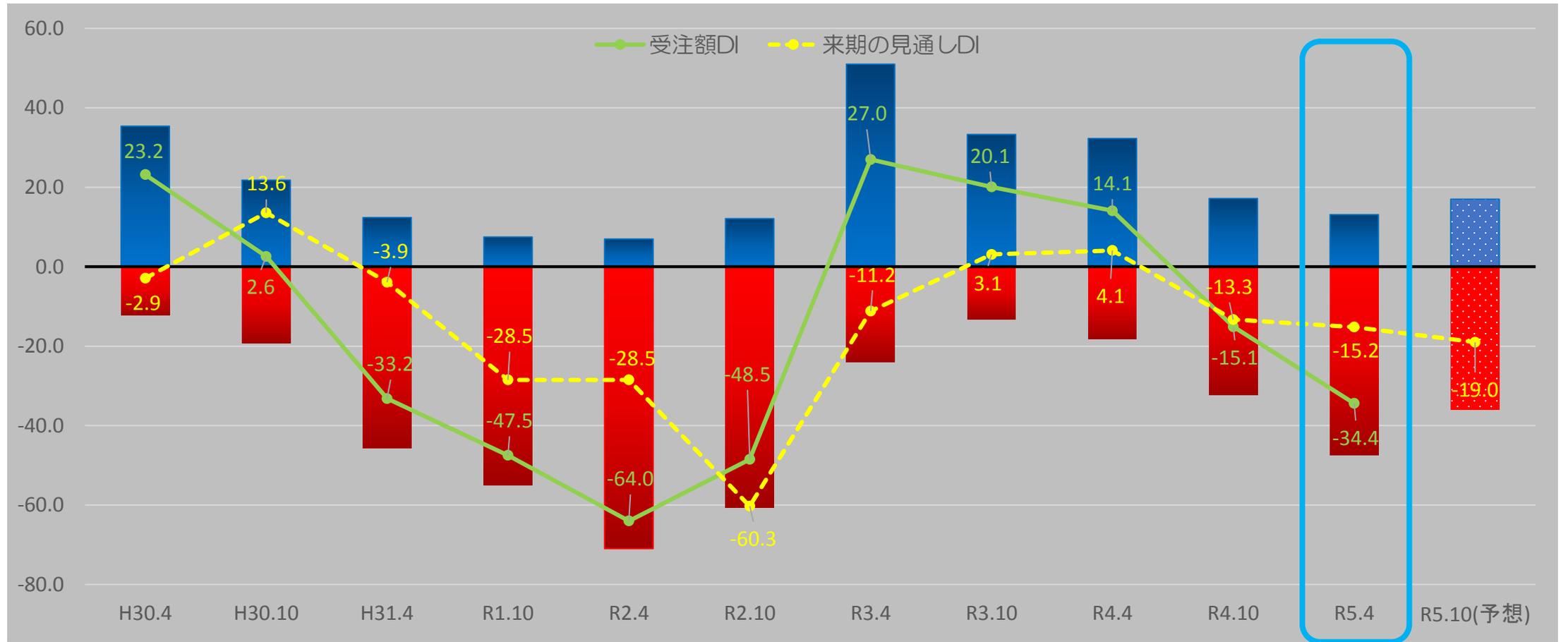
前期と比較したDIは▲28.3ポイントとなり、前期の▲19.0ポイントより9.3ポイント悪化しました。  
 また、来期の見通しDIは▲15.0ポイントとなり、前期の▲13.2ポイントより1.8ポイント悪化しました。

## ②生産額DI【前期(6ヶ月前)に比べて】



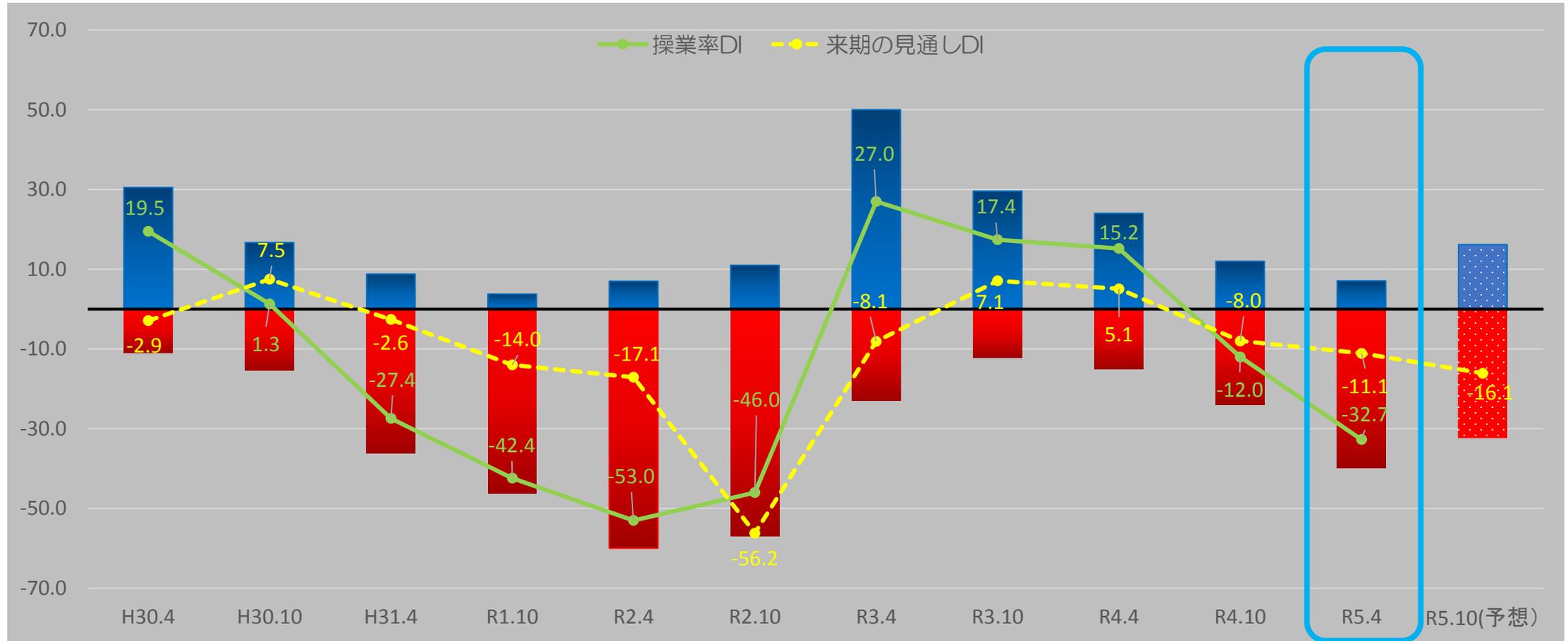
前期と比較したDIは▲25.3ポイントとなり、前期の▲14.1ポイントより11.2ポイント減少しました。  
また、来期の見通しDIは▲14.0ポイントとなり、前期の▲11.0ポイントより3.0ポイント減少しました。

### ③受注額DI【前期(6ヶ月前)に比べて】



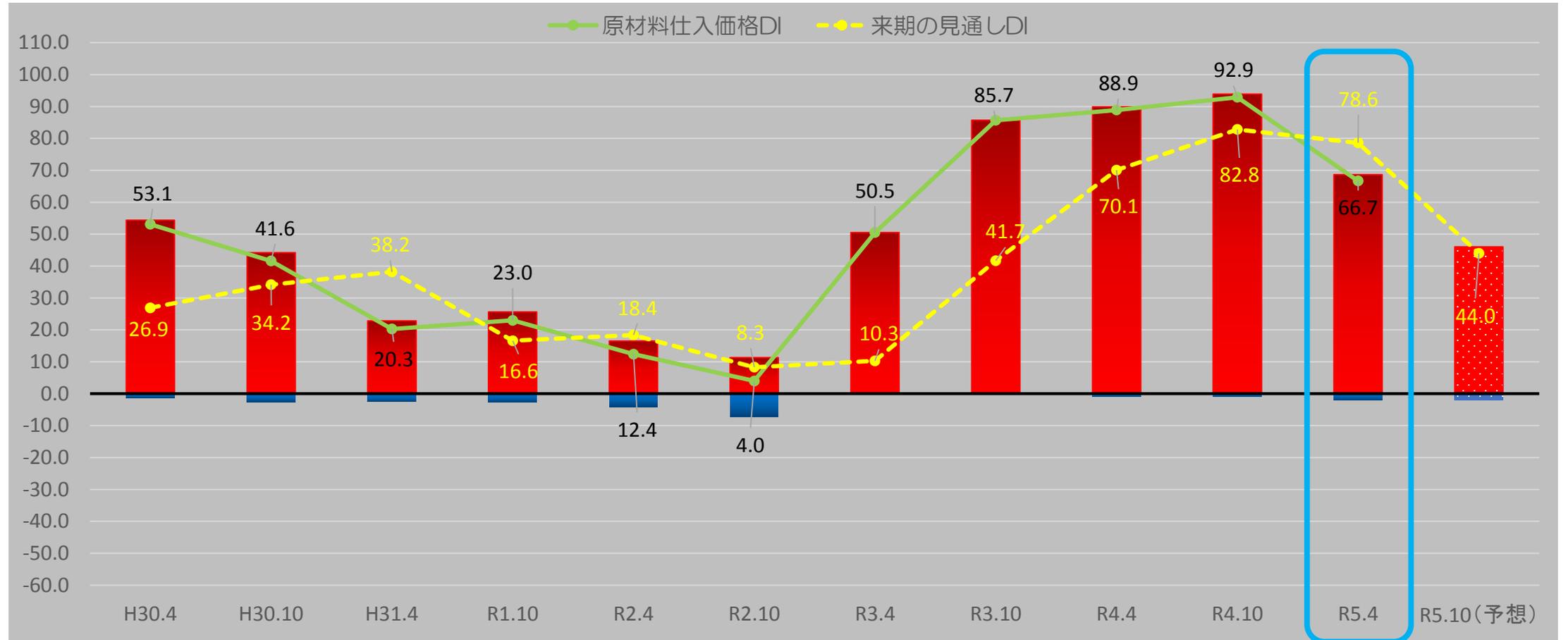
前期と比べたDIは▲34.4ポイントとなり、前期の▲15.1ポイントより19.3ポイント減少しました。  
また、来期の見通しDIは▲19.0ポイントとなり、前期の▲15.2ポイントより4.2ポイント減少しました。

#### ④ 操業率DI【前期(6ヶ月前)に比べて】



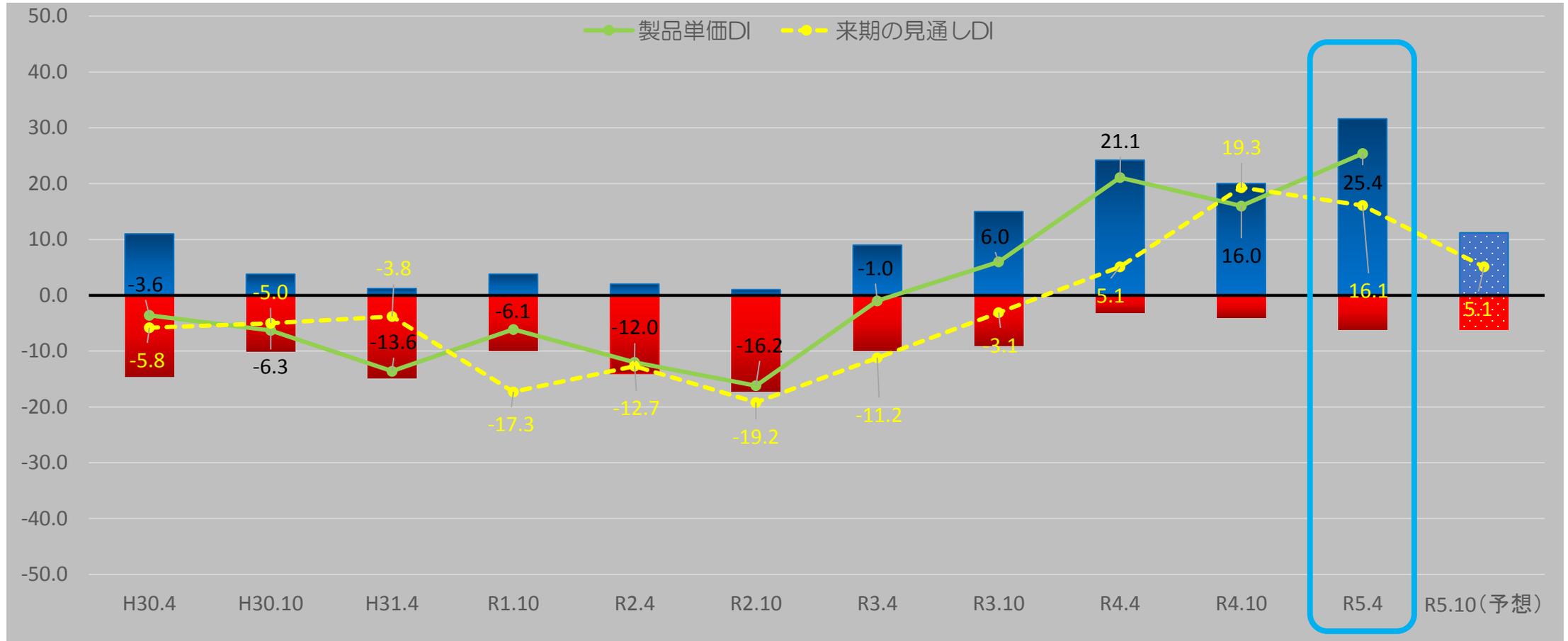
前期と比べたDIは、▲32.7ポイントとなり、前期の▲12.0ポイントより20.7ポイント低下しました。  
また、来期の見通しDIは、▲16.1ポイントとなり、前期の▲11.1ポイントより5.0ポイント低下しました。

### ⑤原材料仕入価格DI【前期(6ヶ月前)に比べて】



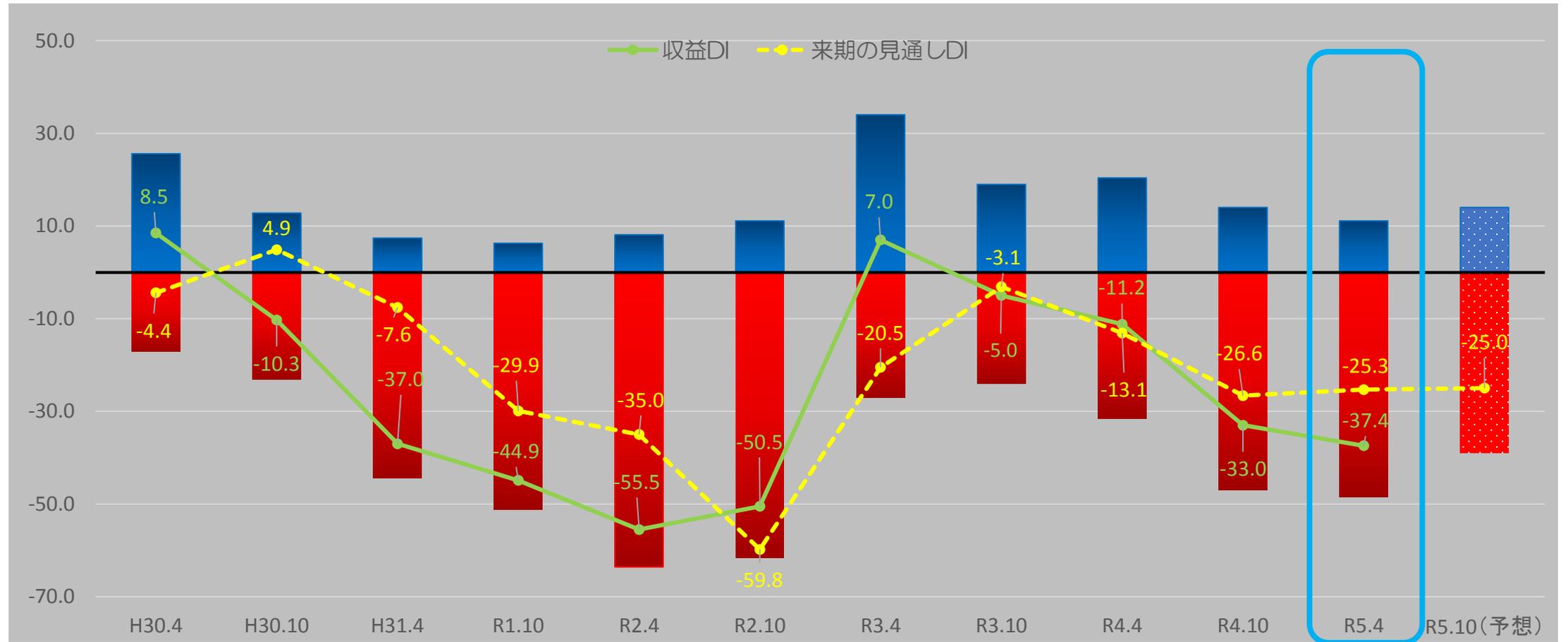
前期と比べたDIは、66.7ポイントとなり、前期の92.9ポイントより26.2ポイント低下しました。  
また、来期の見通しDIは、44.0ポイントとなり、前期の78.6ポイントより34.6ポイント低下しました。

## ⑥製品単価DI【前期(6ヶ月前)に比べて】



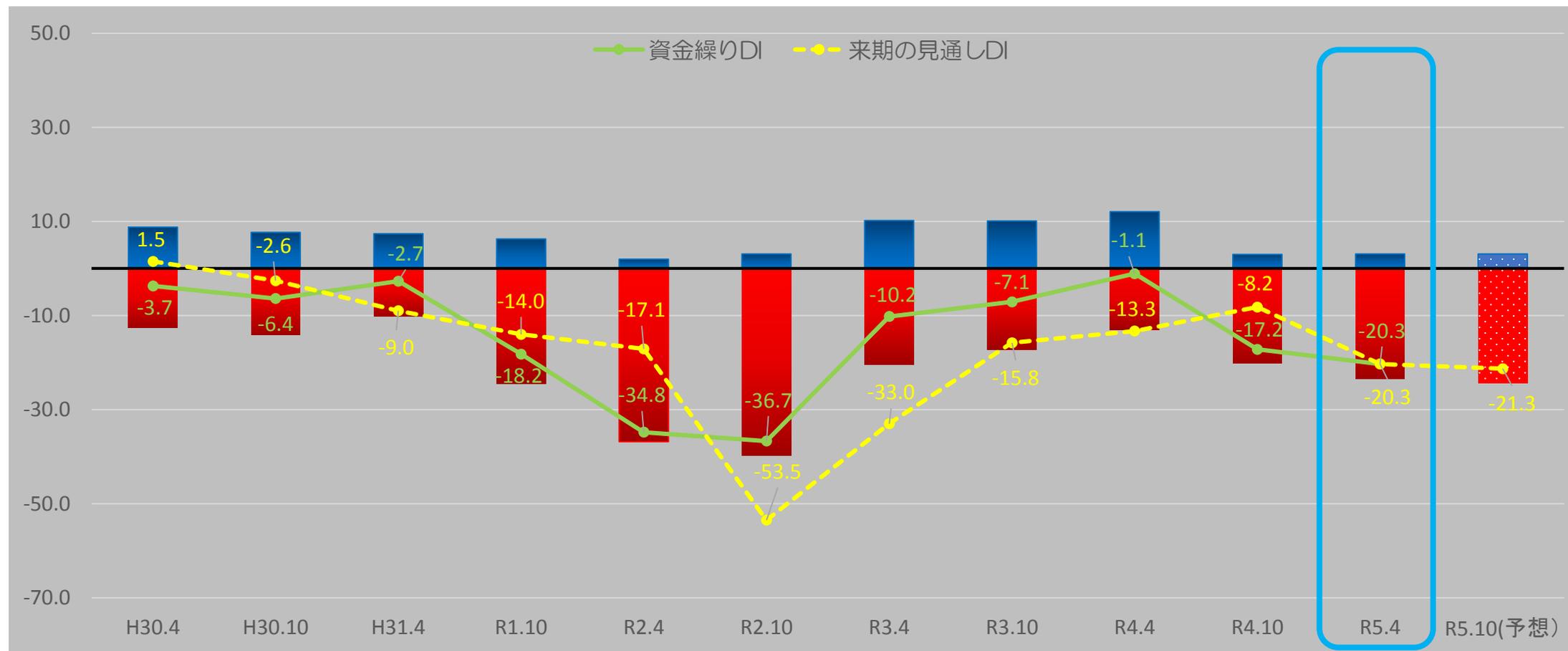
前期と比べたDIは、25.4ポイントとなり、前期の16.0ポイントより9.4ポイント上昇しました。  
また、来期の見通しDIは、5.1ポイントとなり、前期の16.1ポイントより11.0ポイント低下しました。

## ⑦収益DI【前期(6ヶ月前)に比べて】



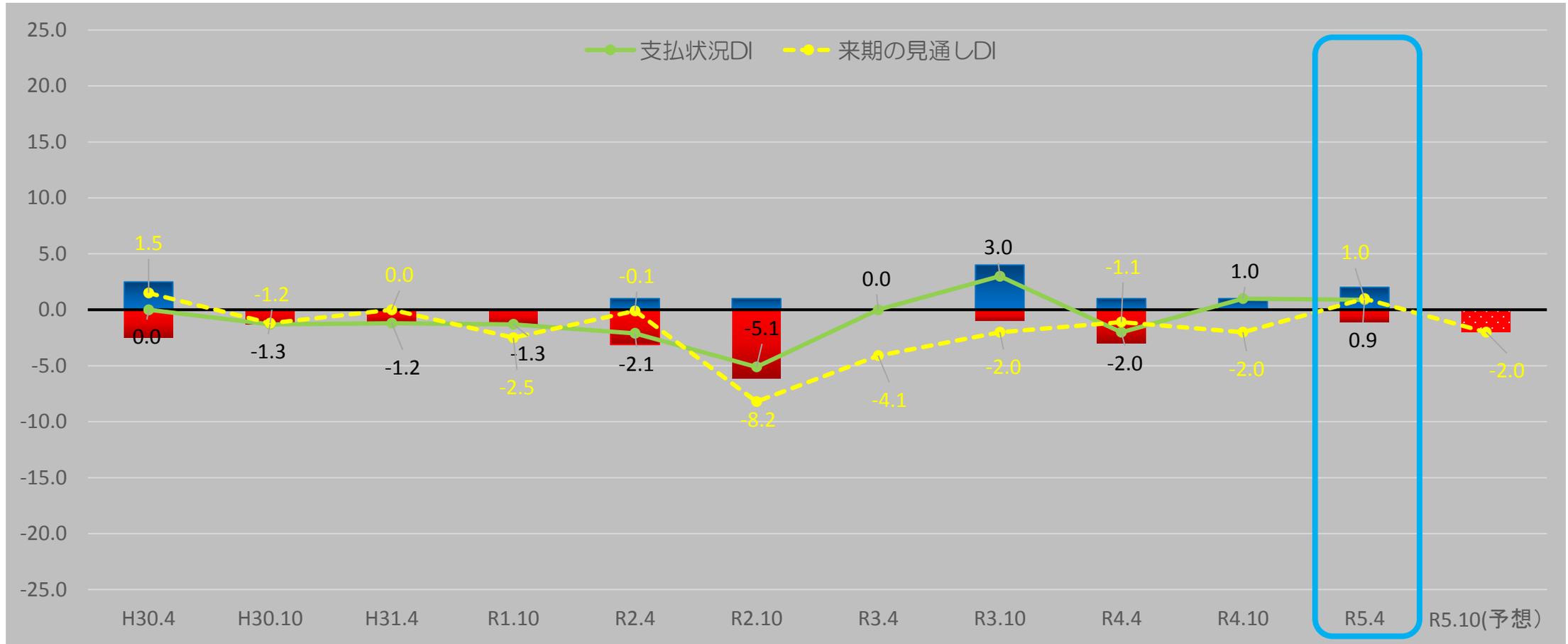
前期と比べたDIは▲37.4ポイントとなり、前期の▲33.0ポイントより4.4ポイント減少しました。  
また、来期の見通しDIは▲25.0ポイントとなり、前期の▲25.3ポイントより0.3ポイント上昇しました。

### ⑧資金繰りDI【前期(6ヶ月前)に比べて】



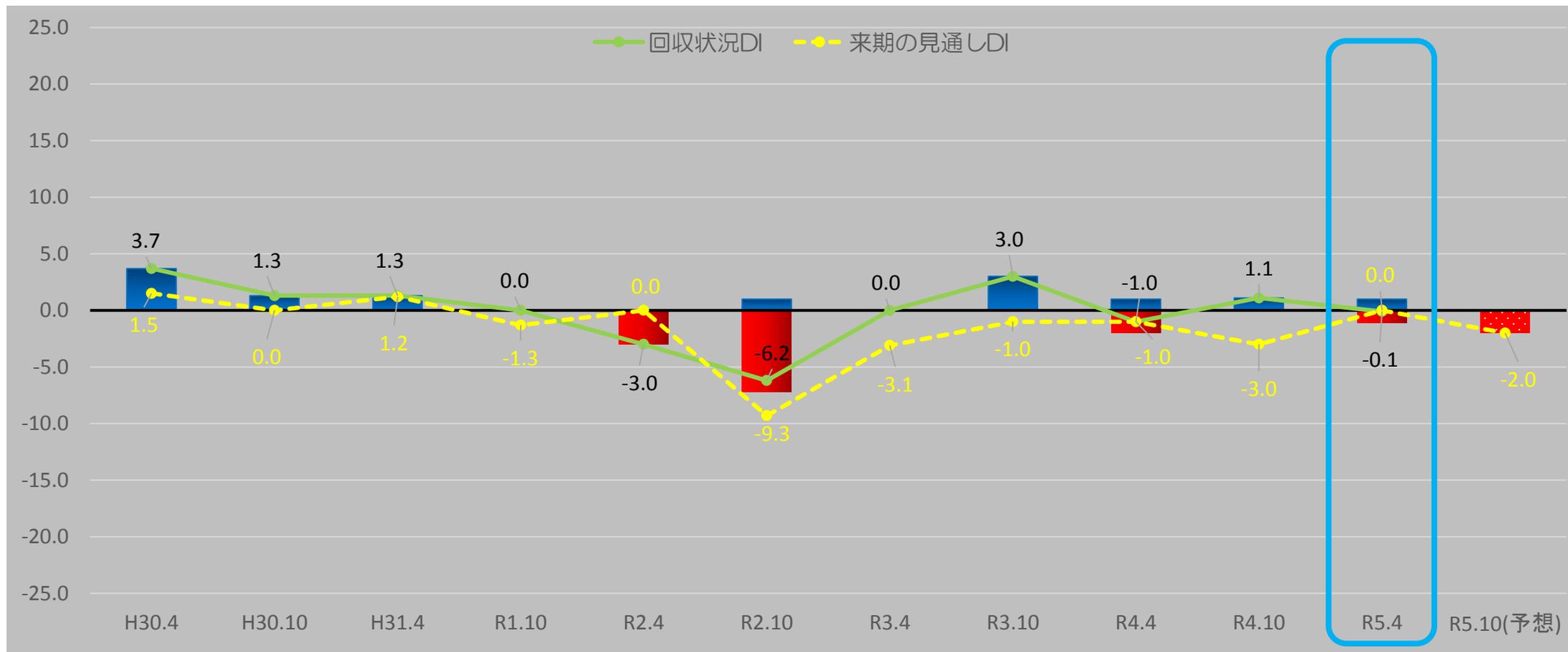
前期と比べたDIは、▲20.3ポイントとなり、前期の▲17.2ポイントより3.1ポイント低下しました。  
 また、来期の見通しDIは、▲21.3ポイントとなり、前期の▲20.3ポイントより1.0ポイント低下しました。

### ⑨支払状況DI【前期(6ヶ月前)に比べて】



前期と比べたDIは、0.9ポイントとなり、前期の1.0ポイントより0.1ポイント悪化しました。  
 また、来期の見通しDIは、▲2.0ポイントとなり、前期の1.0ポイントより3.0ポイント悪化しました。

### ⑩回収状況DI【前期(6ヶ月前)に比べて】



前期と比べたDIは、▲0.1ポイントで前期の1.1ポイントより1.2ポイント悪化しました。  
 また、来期の見通しDIは、▲2.0ポイントとなり、前期の0.0ポイントより2.0ポイント悪化しました。

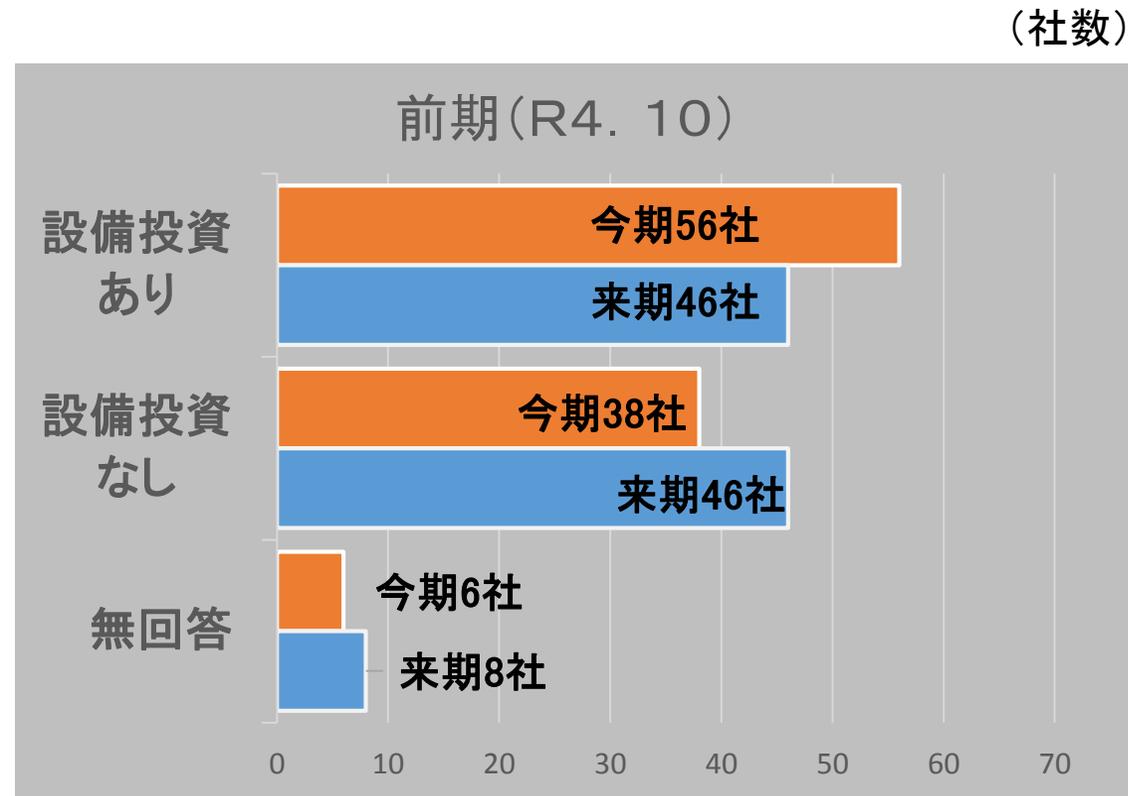
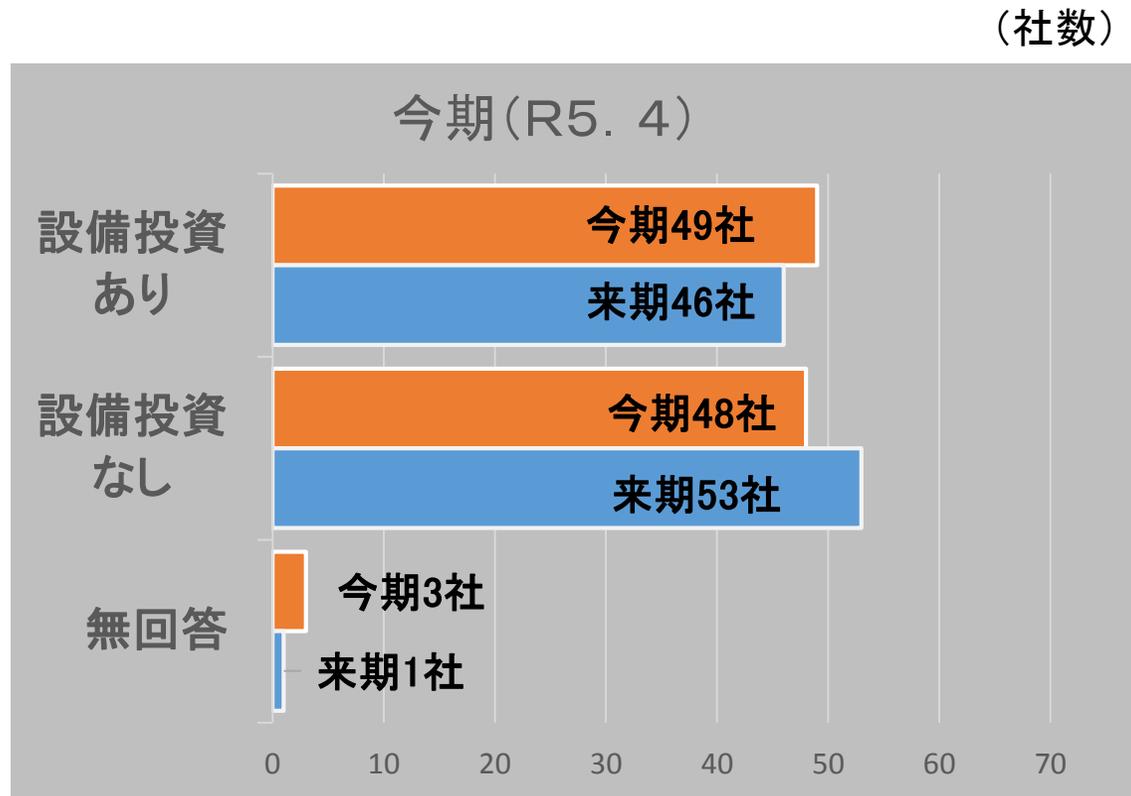
⑪ 今期の業種別業況DI

	精密	機械	電気	計量	表面処理	鋳造
前期に比して	▲26.4	▲25.0	▲9.0	▲28.6	▲75.0	33.3
前年同期に比して	▲29.0	▲42.8	▲27.2	▲14.2	▲83.3	33.3

## ⑫設備投資について

調査企業数: 100社

・設備投資の状況について



設備投資を行っている(計画している)と回答した企業が、今期49社 来期46社となり、前期より減少しています。

### ⑬- 新規販路開拓の取り組みについて

調査企業数: 100社

#### ・ア.新規販路開拓の取り組み状況について

項目	回答数
① 既存分野で販路開拓している。	34社／100社
② 新分野への販路開拓を行っている。	14社／100社
③ 新分野での販路開拓を予定している。	2社／100社
④ 既存分野及び新分野で販路開拓を行っている(予定している)。	12社／100社
⑤ 既存及び新分野ともに販路開拓の予定はない。	36社／100社
無回答	2社／100社

アフターコロナでの新たな受注確保に向け62社が販路開拓を行って(予定して)います。このうち28社が新分野での販路開拓を行って(予定して)おり、新分野への参入、展開に向けた動きが見られます。

### ⑬- 新規販路開拓の取り組みについて

・イ.販路開拓を行っている(予定している)新分野について \*複数回答あり  
 ※13-アで新分野への販路開拓を行う(予定含む。)と答えた企業28社による

項目	回答数
医療	14社／28社
ロボット産業	8社／28社
クリーンエネルギー自動車関連	7社／28社
半導体	5社／28社
航空宇宙	4社／28社
環境エネルギー (水素等燃料電池含む)	4社／28社
デジタル産業	1社／28社
その他	8社／28社

・ウ.販路開拓先の地域について \*複数回答あり  
 ※13-アで販路開拓を行う(予定含む。)と答えた企業62社による

項目	回答数
中部圏	43社／62社
首都圏	37社／62社
近畿圏	27社／62社
九州圏	18社／62社
東北圏	13社／62社
北陸圏	12社／62社
中国圏	11社／62社
海外(インド、中国、アメリカ、ドイツ等)	11社／62社
四国圏	10社／62社
北海道	9社／62社

新分野における販路開拓は「医療」が最も多く、次いでロボット産業やEV等のクリーンエネルギー自動車関連も注目されています。

販路開拓先では中部圏及び首都圏をはじめ、全国幅広い地域での販路開拓が行われています。

### ⑬- 新規販路開拓の取り組みについて

・エ.販路開拓の実施方法について \*複数回答あり  
 ※13-アで販路開拓を行う(予定含む。)と答えた企業62社による

項目	今期(R5.4)	前年同期(R4.4)
	回答数	回答数
企業訪問による営業活動	36社/62社	39社/100社
ホームページの活用	30社/62社	35社/100社
現地開催の展示会出展	20社/62社	31社/100社
取引企業を通じたあっせん等	20社/62社	29社/100社
支援機関(金融機関等)を通じたあっせん等	13社/62社	項目なし
オンラインによる営業活動	11社/62社	18社/100社
受注マッチングサイト活用	6社/62社	項目なし
オンライン・バーチャル展示会出展	5社/62社	項目なし
その他	2社/62社	項目なし

・オ.販路開拓における課題について \*複数回答あり  
 ※13-アで販路開拓を行う(予定含む。)と答えた企業62社による

項目	回答数
営業等専門職不在	29社/62社
通常業務繁忙	26社/62社
人手不足	20社/62社
取り組み手法不明	9社/62社
課題なし	4社/62社
その他	2社/62社

新型コロナウイルス感染症が5類に移行される影響もあり、対面での販路開拓を行う企業が増える一方で、「営業等専門職不在」、「通常業務繁忙」、「人手不足」が課題となっています。

## ⑭-ア 従業員数の現状

項目	回答数
不足している	49社／100社
不足していない	51社／100社



○必要な従業員数に対して、何パーセント不足しているか(49社)

項目	回答数	回答割合
10%未満	24社／49社	49.0%
10～19%	20社／49社	40.8%
20～29%	2社／49社	4.1%
無回答	3社／49社	6.1%

従業員数が「不足している」と回答した企業は49社となりました。そのうち、不足している割合が10%未満と回答した企業が約5割、不足している割合が20%未満とする企業が約9割となりました。

⑩-イ 不足している職種

調査企業数:「不足している」と回答した49社 \*複数回答あり

項目	回答数	回答割合	順位	項目	回答数	回答割合	順位
製造職	33社／49社	33.3%	①	品質管理・検査職	7社／49社	7.1%	⑤
技術職	26社／49社	26.3%	②	管理職候補	6社／49社	6.1%	⑥
営業職	13社／49社	13.1%	③	研究開発職	4社／49社	4.0%	⑦
管理職	8社／49社	8.1%	④	事務職	2社／49社	2.0%	⑧

従業員が不足していると回答した49社の中で、最も不足している職種は製造職で、次いで技術職、営業職という結果となりました。製造現場での人材確保が課題となっています。

※ ○数字は、回答数による順位

⑯-ウ 従業員の不足に対する取り組みの予定

調査企業数:「不足している」と回答した49社

項目	回答数	回答割合	順位	項目	回答数	回答割合	順位
中途採用の強化	39社／49社	31.7%	①	外国人の積極採用	9社／49社	7.3%	⑥
新卒採用の強化	21社／49社	17.1%	②	第2新卒採用の強化	7社／49社	5.7%	⑦
労働条件の改善	13社／49社	10.6%	③	DX・IT活用による事業効率化	7社／49社	5.7%	⑦
採用活動を更に強化	10社／49社	8.1%	④	女性やシニアの採用	6社／49社	4.9%	⑨
職場環境の改善	10社／49社	8.1%	④	障がい者の積極採用	1社／49社	0.8%	⑩

従業員が不足していると回答した49社のうち、「中途採用の強化」を図る企業が最も多くなっています。

また、労働条件・職場環境の改善、外国人・女性やシニアの採用など多様な手段で人手不足の解決を図る取組が行われています。

※○数字は、回答数による順位、複数回答あり